

# 令和5年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年	2	類型	カレッジコース
教科書	東京書籍 新編 化学基礎			副教材	東京書籍 新課程ニューサポート 新編化学基礎				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	態		
1 学期	4	1編 化学と人間生活	1章 化学とは何か			◎	<b>学習のねらい</b> 1学期は物質を分離・精製したり成分を調べたりすることで、物質の成り立ちについて学びます。また物質を構成する原子・分子・イオンの基本粒子の結合によっている異なる性質の物質ができることを学習します。 2学期は原子や分子の数や量の扱い方について学びます。また、物質の反応や変化を化学反応式で表す方法を学び、化学反応式の量的関係について学習します。 3学期は中和反応の量的関係を学ぶとともに身近な物質を用い、濃度を測定することで実験技能を習得します。また、酸化と還元、電池や電気分解について学習します。	
			2章 物質の成分と構成元素	1 物質の成分	○	◎		
	5	2編 物質の構成	2 物質の構成元素		○	◎		
			"		○			
			3 物質の三態		◎	○		
	6	1章 原子の構造と元素の周期表	1 原子の構造		○	◎		
			2 電子配置と周期表		◎	○		
			2章 化学結合	1 イオンとイオン結合		○		◎
			2 分子と共有結合			○		◎
	7	2章 化学結合	3 金属と金属結合			○		
"				◎	◎			
4 化学結合と物質の種類					○	◎		
"				◎				
2 学期	8	3編 物質の変化	4 化学結合と物質の種類			◎	<b>学習の目標</b> ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けます。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養います。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養います。	
			1章 物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量		◎		○
			2 物質質量		○	◎		
	9	1章 物質と化学反応式	"			◎		○
			3 溶液の濃度		◎	○		
			4 化学反応の表し方		◎	◎		
	10	2章 酸と塩基	5 化学反応式の表す量的関係			○		◎
			"			○		○
			1 酸と塩基		○	◎		
	11	2章 酸と塩基	2 水素イオン濃度とpH		○	◎		
"					○	◎		
3 中和反応と塩の生成				◎	○			
12	2章 酸と塩基	"		◎	◎			
		4 中和滴定			◎	○		
		"		○	○			
3 学期	1	3章 酸化還元反応	1 酸化と還元			◎	事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
			"		◎	○		
			2 酸化剤と還元剤		○	◎		
	2	3章 酸化還元反応	"		◎	○		
			3 金属の酸化反応			○		◎
			"		◎	○		
	3	3章 酸化還元反応	4 酸化還元反応の応用			○		○
"				◎	◎			
学年末考査				◎	◎			
3	終章 化学が拓く世界	まとめ			○	◎		
		"		◎	○			

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 態：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【概要】

- 単なる語句の暗記ではなく、科学的な原理を理解し、柔軟に応用できることが大切です。そのためには、まずは興味を持って取り組みましょう。
- 問題を解けば解くほど、真実が見えてきて、自由に応用できるようになります。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1時間の授業の流れは、次のようになります。
  - ① 前回の授業の内容を小問プリントなどで確認します。
  - ② 新しい内容に取り組みます。
  - ③ 内容を確認して、要点を整理、問題演習を行います。
- 覚えた語句を用いて問題を解くことが基本です。  
→教科書・ノートを確認しやすくしておきましょう。

【家庭学習】

- 授業を受ける前に、教科書を読んで、授業内容を予習しておきましょう。
- 予習の内容を確認しながら、授業時間内に理解します。
- その日のうちに復習をしておく、授業内容を理解する度合いが違ってきます。

【定期考査】

- 語句の意味、表記などを正確に覚えることが基本になります。
- 高校の学習は専門的な内容を系統的に学びます。自分で考え要点をまとめることが必要になります。
- 初めて見る問題でも、知識の応用で全て解けます。あきらめず粘り強く取り組む姿勢をつくりましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習態度の3点の観点から から評価します。	
評価の基準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均